

漢語名詞「進歩」と「向上」のコロケーションの 異同について

中 溝 朋 子
坂 井 美 恵 子
金 森 由 美
大 岩 幸 太 郎

要旨

筆者らは、コーパスを用いて日本語学習者に役立つ情報を収集することを目的とし、類義語である「進歩」と「向上」を例にコロケーションの異同について調査を行った。コーパスは国研(2009)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で、日本語解析エンジンとMicrosoft Excelを用いて、コロケーションの検索と用例数をカウントした。本稿では、その調査結果を基に学習者にとって必要と思われる「進歩」と「向上」のコロケーション情報についての試案を述べる。

キーワード

コーパス, コロケーション, 共起, 「進歩」, 「向上」

1 はじめに

近年、日本語教育においてコロケーションの重要性が多く指摘され(大曾, 2005, 三好, 2007 他), コロケーション習得に特化した教材も出版され始めている。しかしコーパスなどを利用したコロケーションの使用実態について日本語教育を目的とした研究はまだ少数であり, 学習者のためにどの範囲をコロケーションと考えるべきか, 具体的にどのようなコロケーション情報を学習者に提示するべきかについては今後も検討が必要と考えられる。

本稿ではこのような現状を踏まえ, 類義語である「進歩」と「向上」のコロケーションの異

同について調査し, コロケーション情報として学習者に提示する具体的な試案を作成し, 教材作成の一助となることを目的とする。両者は類義語であり, 辞書にそれぞれの意味は記述されているものの, 例えば「技術の進歩/向上」, 「会話力が進歩スル/向上スル」のように同じ文脈で使用可能な場合も多い。こうした類義語については, 意味的な異同の説明ばかりでなく, 実際にどのように, どのような語と使用されることが多いのかなどを明らかにすることで, 両者の異同をより鮮明にすることができると考える。

このようなことから本稿では, 「進歩」と「向上」を例にどのような語と使用されるかをコー

パスを用いて明らかにし、学習者に提供する情報についての試案を作成して教材作成の一助となることを目的としている。

なお、本文中「ー」は「進歩」もしくは「向上」が、「～」は当該両語以外の語が入ることを示している。

2 本稿で考えるコロケーション、およびコーパスの有用性

2.1 本稿で考えるコロケーション

日本語教育において、どの範囲をコロケーションと考えるべきか、具体的に学習者にどのようなコロケーション情報を提示すべきかは難しい課題である。従来、日本語教育で考えられてきたコロケーションは、固定度が高い慣用句や、自由に結びつく語の結合との区別という点から議論されてきた「連語的慣用句」(宮地1985)、「連語」(国広,1997)などの概念に近い、ある程度固定的なレベルであった(三好,2007)。これらは「風呂から上がる」「暇を潰す」など、「語と語の結び付きかたは決まっているけれども、全体の意味は個々の語の意味からすぐ分かる」もので、「外国人学習者には特に必要な知識とされている(国広,1997:128-129)。しかし近年、日本語教育においては学習者の母語の影響や誤用の可能性などを考慮し、三好(2007)では「薬を飲む」、大曾(2005)では「テニスをする」、「風呂を沸かす」といった自由結合とも分類され得る例についても取り上げるべき内容と指摘されている。本稿でも三好(2007)や大曾(2005)と同様に日本語教育におけるコロケーションは、学習者が自然な日本語を効率的に習得するために必要な情報が含まれることが重要な要素と考え、従来より広くその範囲を考える。

2.2 コーパスの有用性

また学習者に、具体的にどのようなコロケーション情報を提供すべきかという点について、大曾(2002,2005)ではコロケーション特定のためのコーパスの有用性を主張している。大曾(2005)では、例えば文法的にはともに使用が可能な「大きい+Noun」と「大きな+Noun」の使用例数や使われ方の比較、また類義語である「議論」と「論議」がいわゆるスル動詞としてどのような文脈で使用されているかなどについて数値を挙げて説明し、使い方の違いを明らかにしている。日本語学習にはこうした使用方法に関わる情報は大変重要であるが、母語話者の内省によって得られる情報は必ずしも実際の使用と一致するとは限らないため、大曾(2002,2005)が指摘するように、コーパスは実情を知る意味で大変有用と考えられる。したがって本稿でも、コーパスを用いて語の使用実態を明らかにし、典型的、または特徴的と言える共起・修飾に関わる情報を収集し、それらをコロケーション情報として学習者に提供したいと考えている。

3 「進歩」と「向上」の意味的異同

調査対象としている類義語「進歩」と「向上」の辞書による意味は以下の通りである。

<進歩>

- ① すすみあゆむこと。
- ② 物事が次第に発達すること。物事が次第によい方、または望ましい方に進み行くこと。「技術がーする」⇔退歩 (『広辞苑』)
- ① 物事がしだいによりよいほうや望ましいほうへ進んでいくこと。「ーが早い」「長足のーを遂げる」「技術がーする」⇔退歩
- ② 歩を進めること。前進。 (『大辞泉』)

<向上>

- ① 上に向かって進むこと。前よりすぐれた状態に達すること。進歩。「体位が一する」
- ② ……より上。以上。
- ③ 最上。最高。(『広辞苑』)

- ① よりよい方向、すぐれた状態に向かうこと。進歩。「学力が一する」「生活レベルの一」⇔低下
- ② 最上。最高。
- ③ 仏語。絶対平等の境地。またそれに向かつて進むこと。(『大辞泉』)

これらの意味については、他の辞書においてもほぼ同様の説明がなされている。このように、「進歩」と「向上」については、使用されている漢字から「進歩」が前へ「向上」が上へという方向性をイメージさせる違いはあるものの、「物事が良い方向に変化する」という意味は共通しており、先述のように同じ文脈で使用が可能な場合がある。このようなことから、「進歩」と「向上」についても辞書的な意味を参考にするだけでは、実際に言語を選択する際には判断が難しいであろうこと予想でき、どのような使われ方をされているかは有用な情報となると考えられる。

4 調査方法

4.1 コーパス

本稿で使用するコーパスは、国研(2009)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』である。本コーパスには、書籍(出版)1,300万語、書籍(図書館)1,500万語、ベストセラー230万語、政府刊行白書480万語、Yahoo!知恵袋520万語、国会議事録490万語のデータが収録されており、現代日本語の書き言葉を代表すると見なされている。この中から、本調査ではより新しい

用例を収集するため2000年以降のコーパスのみを検索の対象とし、「進歩」と「向上」が使用されている文を検索した。なお、本稿では同コーパスの中で自然発生的な話し言葉も含まれ得る「国会議事録」は、検索の対象から除外した。

4.2 コロケーションの抽出

検索した文について形態素解析エンジン MeCab、および係り受け解析エンジン CaboCha を使用した現在開発中の日本語検索エンジン¹⁾と Microsoft Excel を使用し、共起する動詞、前接及び後接する語を抽出し、語数のカウントを行った。以下、その結果について述べる。

5 調査結果²⁾

5.1 「進歩」と「向上」のスル動詞

上述のコーパスを検索した結果、「進歩」843例、「向上」2,603例の用例を収集した。そのうちスル動詞として使われる用例を調べたところ、「進歩スル」は843例中150例(18%)、「向上スル」は2603例中520例(20%)であった。使用例数は異なるものの、ともに約20%がスル動詞として使用されており、5.3で後述するどの動詞よりもスル動詞としての使用が多いことが分かった。

本稿では、これらスル動詞については複合動詞一語と考え、本稿で対象とする漢語名詞「進歩」「向上」と動詞の共起には該当しないと考え、以下の調査の対象から除外した。

5.2 「進歩」「向上」に後接する語

次に、「進歩」「向上」に後接する語を調査した。それぞれの語には漢語もしくは接辞が後接している場合があり、その数は「進歩」が151例、「向上」が182例であった。このような漢

語や接辞が後接した中で用例数の多かったものを表2に示す。

表2 「進歩」「向上」＋漢語／接辞

「進歩」	用例数	「向上」	用例数
－的	60	－心	49
－主義	15	－傾向	14
－性	15	－策	9
－党	12	－推進事業	6
－史観	10	－支援	4
－発展	8	－発展	
－派		－対策	
－率	6	－努力	
－思想	5	－事業	
		－運動	

まず「進歩」については「－的」が60例(40%)で最も多く、その他にも「－性」15例(10%)、「－率」6例(4%)など接辞が後接している例が多く見られた。また「進歩」では、「－主義」15例(10%)、「－党」12例(8%)、「－史観」10例(7%)のように、政党名や考え方など社会科学の用語としても使用されている語が多くあった。

また「向上」は、「－心」49例(27%)が最も多くはあったが、「－策」9例(5%)などのほかは、普通名詞が後接するケースが多く、その内容は「－推進事業」、「－支援」、「－対策」、「－事業」、「－運動」といった「向上」を意図する動き、方策、施策を表す語が用例数も表現数も多く見られた。

なお、これらの漢語や接辞が後接している場合は、「進歩」「向上」が単独で使用されている場合とは別な語とみなし、以下の調査の対象からは除外した。

5.3 「進歩」「向上」と共起する動詞の特徴

次に、「進歩」「向上」がどのような「助詞＋

動詞」と共起するかについて調査した³⁾。以下、表3に上位8～9位の具体的な語とそれぞれの用例数を示す。

表3 「進歩」「向上」＋助詞＋動詞

「進歩」	用例数	「向上」	用例数
－がある	37	－を図る	355
－を遂げる	16	－を目指す	66
－を生み出す	5	－に努める	46
－を図る	4	－に資する	40
－を示す		－に繋がる	39
－が／は止まる		－を目的とする	34
－が見られる	3	－が 図られる	33
－をもたらす		－に 寄与する	26
		－を行う	23

表3の結果からは、「進歩」では「－がある」37例、「－を遂げる」16例が最も多く、「向上」では「－を図る」355例が圧倒的に多かった。また「進歩」では、「進歩」を意図し(「－を図る」)、生まれ(「－を生み出す」)、または達成され(「－がある」「－を遂げる」)、停滞する(「－が／は止まる」という「進歩」の程度を表す動詞が網羅されていた。それに対し、「向上」と共起する動詞の上位語では、「向上」を意図する動詞(「－を図る」「－を目指す」「－を目的とする」など)が多くを占めており、「向上」の程度を表す動詞は上位の例には入っていない。そのため「進歩」と「向上」に共通する動詞は、「－を図る」のみであった。また、「向上」に役立つことを表す表現(「－に資する」「－に繋がる」「－に寄与する」)が上位語に多く入っていたことも「進歩」と異なる点であった。

5.4 「進歩」「向上」に前接する語

次に、「進歩」「向上」に前接し修飾する動詞以外の語を「名詞＋の」、「い／な形容詞」、「熟語となるもの」に分けて調査した。このうち、「名詞＋の」が「進歩」に前接する例は279例、「向上」に前接する例は1,279例あった。以下、数が多かった用例を表4に示す。

表4 名詞＋「の」＋「進歩」「向上」

「進歩」	用例数	「向上」	用例数
技術の－	102	水準の－	85
文明の－	12	能力の－	81
医学の－		質の－	66
科学の－	11	生産性の－	59
人類の－	8	技術の－	46
長足の－	7	資質の－	45
医療の－		サービスの－	43
格段の－	5	生活の－	31
社会の－	4	福祉の－	28
研究の－	3	意識の－	26
人間の－		利便性の－	24

「進歩」の場合、「名詞＋の」が修飾する279例中、102例(37%)が「技術の－」であった。他にも「医学の－」12例(4%)「科学の－」11例(4%)といったテクノロジーの分野を表す語が使用される場合が大変多かった。また、「進歩」の様態を表す表現として、「長足の－」7例(3%)、「格段の－」5例(2%)など、「向上」では使用されていない表現が使用されていた。

一方で「向上」は、「水準の－」85例(7%)、「能力の－」81例(6%)、「質の－」66例(5%)など用例数も分散していた。また修飾する名詞の役割も「向上」する物事のレベルや性質を表す語(「水準の－」「質の－」)、「向上」する内容・分野を表す語(「サービスの－」「生活の－」

「福祉の－」)などがあつた。分野については、技術から福祉まで広く人間活動一般について用いられていた。

次に「い形容詞／な形容詞」が「進歩」「向上」を修飾している場合を検討する⁴⁾。「進歩」は、「い形容詞＋進歩」7例、「な形容詞＋進歩」47例で合計54例、また「向上」は「い形容詞＋向上」1例、「な形容詞＋向上」28例で、合計29例であった。用例数はともに少なかったが、割合的にも「進歩」のほうが形容詞の修飾が多く使用されていた。具体的にどのような語が使用されていたか、上位の結果を表5に示す。

表5 「－い／－な」＋「進歩」「向上」

「進歩」	用例数	「向上」	用例数
急速な－	12	顕著な－	7
大きな－	6	急激な－	5
小さな－	4	緩やかな－	4
大変な－		質的な－	3
技術的な－		飛躍的な－	2
飛躍的な－			
著しい－			

修飾する語については「飛躍的な－」以外は、「進歩」と「向上」でほとんど別の表現が使用されている。例えば、変化の速さを表す表現は、「進歩」では「急速な」が12例(26%)で最も多かったのに対し、「向上」では「急速な」は1例のみであり(表外)、類似した意味の形容詞としては「急激な」5例(17%)が用いられている。また「進歩」ではその進み具合を表す表現に「大きな－」「小さな－」というサイズを表す表現が用いられているが⁵⁾、「向上」では「緩やかな－」「急激な－」といった緩急を表す表現が用いられている。

次に「の」が用いられず「進歩」「向上」に

前接し、熟語となる名詞（+接辞）について検討する。「進歩」に前接する例は 52 例、「向上」に前接する例は 598 例あった。以下、具体的な用例数が上位の結果を表 6 に示す。

表 6 名詞（+接辞）＋「進歩」「向上」

「進歩」	用例数	「向上」	用例数
技術－	24	生産性－	53
精神的－	5	性能－	47
技術的－	3	質的－	34
科学的－	3	資質－	32
社会－	2	能力－	30
		品質－	23
		地位－	20
		精度－	18
		学力－	17
		利便性－	15

形容詞と異なり、前接する語は、「向上」のほうが多く見られた。「進歩」については、「名詞＋の」と同様に、「技術－」24 例（46%）、「技術的－」「科学的－」各 3 例（各 6%）といったテクノロジーの分野を表す例がほとんどであり、その他の語も「進歩」をする物事の分野を表す語が多く前接している。また、「進歩」に前接する異なり語数 20 語のうち 9 例は「民主的」「経済的」（各 1 例）といった接辞「－的」が使用されている。

一方、「向上」では、学問や産業の分野の名称の使用は少なく、それぞれの分野における指標（「生産性」「性能」「学力」）や「向上」の内容・性質（「質的」「精度」）を表す語が多く前接していることが観察できる。

また表外ではあるが、カタカナ語が前接する例としては、「進歩」が 1 例もなかったのに対し、「向上」では「サービス－」14 例、「リテ

ラシー－」8 例などが見られた。「サービス」は、「サービスの－」も 43 例あったことから、「向上」と結びつく例が大変多いことがわかる。

6 学習者に提供すべき「進歩」「向上」のコロケーション情報試案

以上のような調査の結果から、「進歩」「向上」それぞれのコロケーション情報としては、以下のような点を学習者に提示すべき内容と考え、試案として提案したい。

「進歩」

① スル動詞可

② 共起する動詞

- ・「進歩」の意図：進歩を図る
- ・「進歩」の開始：進歩を生み出す
- ・「進歩」の達成：進歩がある
進歩を遂げる
- ・「進歩」の停滞：進歩が止まる

③ 修飾語

- ・「名詞＋の」で「進歩」の分野を表す場合が多い（特に技術分野）。
例：技術の進歩，文明の進歩 等
- ・「進歩」の様態
小・遅：小さな進歩
大・速：急速な進歩，大きな進歩
格段の進歩，飛躍的な進歩

④ 熟語等

1) 前接する語

- ・「進歩」の分野などを表す場合が多い。
- ・「～的」が使用される場合も多い。
例：技術（的）進歩，科学的進歩

2) 後接する語

- ・一般：進歩的，進歩性
- ・専門（特に社会科学）：
進歩主義，進歩党，進歩史観

「向上」

① スル動詞可

② 共起する動詞

・「向上」が達成される前の意図や努力を表す動詞と多く共起する。

・「向上」の意図：向上を図る／が図られる
向上を目指す
向上を目的とする

・「向上」への努力：向上に努める

・「向上」への貢献：向上に資する
向上に寄与する

③ 修飾語

・「名詞＋の」で「向上」する物事やそのレベル・性質を表す。幅広い分野で使用可能。

例：水準の向上，能力の向上，
サービスの向上，生活の向上 等

・「向上」の様態

小・遅：緩やかな向上

大・速：顕著な向上，急激な向上
飛躍的な向上

④ 熟語等

1) 前接する語

・「向上」する内容や分野における指標などを表す場合が多い。

例：生産性向上，性能向上，質的向上

2) 後接する語

・一般：向上心，向上傾向

・専門（特に施策・運動など）：

向上推進（事業），向上（対）策

7 今後の課題

以上，コーパスを利用して漢語名詞「進歩」と「向上」の使用の実態を調査し，学習者に提供すべき情報について試案を作成した。今後もコーパスを利用し多くの用例を用いて，様々な語についてのコロケーションを調査し情報を

蓄積させるとともに，こられの中で学習者に何を提示すべきか，どのような情報が必要とされるのかなどをさらに検討していきたい。

（山口大学留学生センター 准教授）

（大分大学国際研究教育センター 准教授）

（大分大学国際研究教育センター 講師）

（大分大学教育福祉科学部 教授）

【謝辞】

本研究は科研費（基盤研究(C)20520473）の助成を受けたものである。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

【参考文献】

大曾美恵子，2002，「コーパスから得られるコロケーション情報－『影響，刺激，感動』を中心に－」『言語文化論集』，第23巻第2号，3－12。

—————，2005，「コーパスによるコロケーションの特定－日本語学習辞書の充実を目指して－」影山太郎編『レキシコンフォーラム No.1』，ひつじ書房，11－23。

国広哲弥，1997，『理想の国語辞典』，大修館書店
国立国語研究所，2009，『「現代日本語書き言葉均衡コーパス」モニター公開データ（2009年度版）』，DVD

新村出他編，2008，『広辞苑（第六版）』岩波書店
松村明他編，1995，『大辞泉』小学館

三好裕子，2007，「連語による語彙指導の有効性の検証」『日本語教育』，134号，80－89。

宮地裕，1985，「慣用句の周辺－連語・ことわざ・複合語」『日本語学』，Vol.4 No.1，62－75。明治書院

【注】

1) 本日本語検索エンジンは，「名詞（＋助詞）＋

動詞」のコロケーションを検索するためのもので、山口大学理工学研究科博士課程前期在学中の横山太郎氏によって現在開発中である。「名詞＋動詞」以外の共起については Microsoft Excel を使用した。

- 2) 以下、コーパス中で表記が異なっている場合（漢字とひらがななど）でも、同じ語とみなされる場合は一語として集計し、本稿における用例の表記は漢字書きで統一した。
- 3) 本節で扱う『『進歩』『向上』と共起する動詞』とは、「進歩」「向上」に後続して共起関係を持つ場合のみであり、「進歩」「向上」を修飾する連体修飾節内の動詞は含まない。また動詞については、ボイス（能動・受動）のみを区別してカウントし、テンス（例：「扱う」と「扱った」）、や活用形（例：「扱って」「扱い」「扱わない」など）による違いは同じ用例としてカウントした。
- 4) 品詞分類上、「大きな」「小さな」は、「な形容詞（形容動詞）」ではなく「連体詞」であるが、形容詞と同様の意味や役割を担うことから、便宜上「な形容詞」と一緒にカウントした。
- 5) 大曾(2005)では、毎日新聞 8 年分を調査した結果、「大きい N」は「大きな N」の約 11%しか出現しなかったことが指摘されている。本調査でも用例数は少ないが「進歩」を修飾する語として「大きなー」は 6 例、「小さなー」は 4 例あったのに対し、「大きいー／小さいー」の用例は 0 であり、大曾(2005)の結果と同様の結果が得られた。